

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 佐治 重衡
公立大学法人 福島県立医科大学 腫瘍内科学講座

研究要旨：本研究では、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とし、その内容の作成とコミュニケーション方法の評価をおこなう。本年度は、3学会合同書籍「よくわかるがんゲノム医療」の出版のための、執筆、編集作業をおこなった。

A. 研究目的

本研究は、患者、患者家族、一般市民を対象に、現在のがんゲノム医療の全体像をまとめながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなどの正確な情報を提供する。情報ツールとしては、学会のホームページ、患者会のホームページ、NPOががん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手インターネットサイトを用いる。国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、分担執筆者の選定と執筆、編集作業をおこなっていく。がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について実地診療のなかで、電子媒体や動画等を用いた場合の有用性や問題点についても評価する。

C. 研究結果

書籍「よくわかるがんゲノム医療(仮題)」の制作において、“各種がんにおけるがんゲノム医療”について5つのQAを設定し、それらの項目についての執筆者を決定した。Q31 乳がんや胃がんにおけるHER2検査とはなんですか？、Q32 乳がんや卵巣がんにおけるBRCA遺伝子変異検査とはなんですか？、Q33 悪性黒色腫(メラノーマ)におけるBRAF変異検査とはなんですか？、Q34 慢性骨髄性白血病におけるBCR/ABL融合遺伝子検査とはなんですか？、Q35 消化管間質腫瘍(GIST)におけるKIT変異検査とはなんですか？ の5つについて執筆をおこない、編集者校閲などの作業をほぼ完了した。

がん患者、患者家族に対するコミュニケーションツールの可能性として、タブレット端末を用いた、スライドによるがんゲノム医療(BRCA1/2遺伝子検査、がんゲノム遺伝子パネル検査)説明の実践を実地診療のなかで行った。

D. 考察

遺伝性遺伝子の変化と、体細胞性遺伝子の変化の違いを明確にしつつ、“治療選択を目的とするがん患者さんが必要とする情報”と“罹りリスクやサーベイランス・予防的医療選択を目的とする未発症健常者/がん患者”への情報提供の難しさが、書籍の作成やがん患者・患者家族とのコミュニケーションツール運用のなかから明確になってきた。

E. 結論

書籍「よくわかるがんゲノム医療(仮題)」の内容がほぼ確定した。タブレット端末を用いた、がんゲノム医療説明の実践を行った

これまででは自費診療としてしか選択できなかったが、R2年より、早期乳癌へのBRCA1/2遺伝子検査の保険適応、予防的卵巣卵管切除と対側乳房切除ががん患者さんで保険診療として可能になったことから、「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達は今後ますます重要な課題となると考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 佐治重衡(患者向けガイドライン小委員会 委員長) 患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2019年版、日本乳癌学会編 金原出版、2019.
- 2) 佐治重衡(患者向けガイドライン小委員会 委員長) 乳癌診療ガイドライン 追補2019 2018年版 日本乳癌学会 編、金原出版、2019.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし